

【課題番号】 2-1907

【研究課題名】 気候変動適応を推進するための情報デザインに関する研究

【研究期間】 2019 年度～2021 年度

【研究代表者（所属機関）】 浜田 崇（長野県環境保全研究所）

研究の全体概要

本研究では、地域の気候変動適応を推進するために必要な情報デザインの開発を行う。ここで用いる情報デザインとは、多種多様な気候変動情報を、適応の主体となる情報のユーザーにとって価値のある、使いやすい情報へと変換する作業である。本研究では、このプロセスをリスクコミュニケーションを繰り返しながら実践し、情報作成ガイドラインとして取りまとめるとともに、開発した情報やツールのプロトタイプをクラウド上で公開する。

本研究は6つのサブテーマから構成される。サブテーマ1では、さまざまな気候変動情報（以下のサブテーマ2～6で開発される情報を含む）を、産官学のリスクコミュニケーションの場を活用して、その情報デザインを検討し、成果を情報作成ガイドラインとしてまとめる。サブテーマ2では、地域で収集された高密度気象情報を用いた詳細なメッシュ情報を整備する。サブテーマ3では、過去の主要な異常気象の再現計算を行い、サブテーマ2で整備した情報を活用し地域の気候変動マップを作成する。サブテーマ4では、豪雨および融雪を対象とした土砂災害リスクモデルを用いて、土砂災害警戒区域における発生確率等の情報を作成する。サブテーマ5では、農作物の凍霜害および森林の雨氷害を対象として、週間アンサンブル予報から確率情報をつけた凍霜害、雨氷発生の中短期リスク情報を作成する。サブテーマ6では、教員が屋内外における児童の熱中症予防の判断基準となる情報を作成する。

本研究の成果は、自治体の気候変動適応策の社会実装に役立つと同時に、地域気候変動適応計画策定および地域気候変動適応センターの活動を支援できると期待される。

プロジェクト期間の前半では、主として既存の情報を対象とした情報デザインの検討およびサブテーマ2～6の研究開発、期間の後半ではサブテーマ2～6で作成された情報のデザインを検討し、全体のとりまとめを行う。

研究の全体概要図

課題番号：2-1907

研究課題名：気候変動適応を推進するための情報デザインに関する研究

研究代表機関：長野県環境保全研究所

現状

- ・気候変動の影響顕在化→影響は地域で異なる。
- ・**地域気候変動適応センター**→地域の気候変動適応に関する**情報拠点**として期待
- ・**情報が不足、あったとしてもわかりやすい、使いやすい情報になっていない**

課題

天気予報を見て傘を持っていく（情報が行動に結びつく）ように、地域の気候変動に関する情報を適応に結びつける
情報デザインが必要

本応募

情報デザイン
(価値のある, 使える情報へ)

①情報の整理と課題の抽出

(開発する情報)

- サブ2** (農環研)
高密度気象データベース構築
- サブ3** (環保研)
過去の異常気象情報整理

サブ4 (防災) (福島大)
改良版の土砂災害警戒情報作成

サブ5 (農林業) (東北大)
凍霜害・雨氷害の早期警戒情報作成

サブ6 (健康) (信州大)
児童の熱中症判断基準情報作成

サブ1
(環保研)

(既存の気候変動情報)

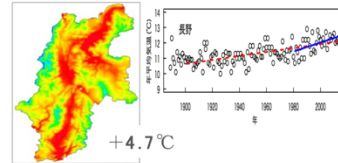
- ・気象庁温暖化予測情報
- ・S-8気候シナリオ
- ・SI-CAT近未来DS
- ・分野毎の影響予測
- ・不確実性リスク

(既存の各種統計情報)

- ・生物季節, 水位, 花粉等

②リスクコミュニケーション

長野県担当部署、地域コミュニティ、農業従事者、教育関係者、市民、団体、研究者などの協働



③情報作成ガイドラインの作成
開発した情報やツールのプロトタイプをクラウドで公開

目指す姿

成果のクラウド利用 (A-PLAT・DIAS・各種ホームページへの実装)

全国の地域気候変動適応センターや様々な主体が活用

気候変動に対する地域適応を実現